

板書例

読書の世界を駆けよる
100分 100分 100分

千年の釘にいどむ

めあて 白たかさんの生き方について
考えよう。

学習の進め方 音読 ↓ 交流 ↓ 書きまわめ

千年前の職人
機械なしですばらしい工
をりしけた。
炭素のこことヒノキの性質
を知った。
千年たってもびくともしない
建物。
千年もつ釘を作った。

白たかさん
職人といふ意地
二万四千本
改良を続けた。
ほんの少しのまちがい
でもゆるさない。
何本も何本も
支の釘とくへる。
まだまだ、釘を作ろう

千年先の職人
「手くさ」と思われたく
ない。
笑われたくない。
こいつもやりよるわい。

白たかさんの生き方
「白たかさんの生き方と、それからの自分」
キーワード 白たかさん、自分、生き方

白たかさんは笑った。
「ヤ」と作れた。
「意地」
「おもしろい」
「自分のことを誇った」

負けるわけにはいかないのだ。

金づくりをがんばって
あきらめない。
釘作りで人生をかけている
熱心になりなさい。
一つのこと集中
なとくするまでやる。
釘に閉じて笑われたな。
「意地」
「自分」
「自分」

人から
一つのこと集中
なとくするまでやる。
釘に閉じて笑われたな。
「意地」
「自分」
「自分」

児童の感想から

白たかさんの生き方は、自分にすなおで、釘作りへのプライドとこだわりがある。自分にとって、目標にしたい生き方だ。これからは、正しいことは正しい、間ちがっていることは間ちがっている、自分の意見を持って生きていきたい。

ぼくは、ぼくと白たかさんの生き方を比べてみたら、白たかさんの生き方には「自分」というものが入っていることが分かりました。ぼくは、自分の生き方はあまり自分がないように思いました。自分の生き方を変えていきたいです。

白たかさんの生き方は、すべて釘にかけていると思います。これから自分は、一つこれをやると言ったら、集中して最後までやりきりたいです。二万四千本もの釘を作り上げられたのは、意地があったからだと思います。

白たかさんは、自分がなつとくのいくまで何本も、何本も挑戦する人だと思いました。自分は、すぐにあきらめてしまうけど、白たかさんは、二万四千本も作ったすごい人だと思いました。こんな生き方がしたいです。

私は自分の生き方を白たかさんと比べて、白たかさんは、自分というものをもっているなと思いました。私は、今まで全然生き方について考えなかったけど、この勉強をして自分というものを持ちたいなと思いました。

白たかさんは、一つのこと熱心になる人だけど、自分にくらべると、すごい人だと思う。私は、すぐに気が散ってしまうから、大人になったら、白たかさんのように、一つのこと熱心になれる人になりたい。

本時の学習指導案へ

CLICK

評価問題

HOME

単元の流れへ

本時の流れへ